

竹川病院

看護部主任 2階大澤みどり主任 3階大森正雄主任 4階梶原志保主任

功 績 患者さん、職員のCOVIT-19感染拡大する中、看護師とリハビリスタッフが協力し合い業務し感染を抑えられた。感染による入院対応を落とすことなく高稼働を維持できた功績

推 薦 者 看護部 看護部長 今木恵子

推 薦 理 由 現在、当院では各階に師長を置かず、各階主任が密に連携をとりながら管理をおこなっています。全国的にコロナ・インフルエンザの感染が拡大する中、主任たちはそれぞれ臨機応変に業務の効率化をおこなうこと、リハビリスタッフに協力してもらうことなどで高稼働をキープしつつ患者さんの治療・ケアにあたりました。感染拡大で職員が逼迫する中、急性期からの紹介も断らず、年末年始を予定通りの満床で経過することができた立役者として各階病棟主任を理事長賞に推薦いたします。

内 容

11月下旬より当院ではCOVIT-19の患者さんが発生しました。時期的に急性期病院からの紹介も多く、高稼働で対応しながらの隔離対応のため感染対策を徹底していても感染拡大を抑え込むことは困難な状況でした。

そのような中、12月には全国的にインフルエンザ感染も急激に拡大し、当院でも患者さん・スタッフに感染者も発生し、病棟でも感染が拡大していました。感染対策については院内ルールを遵守し対応を進めていましたが、スタッフのご家族からの感染など看護要員が急激に不足する事態に陥ってしまいました。現在当院では各階に看護師長を置かず、各階主任が密に連携をとりながら管理をおこなっています。感染のため出勤できない職員が増え、各病棟少ない人数の中、各階主任は、状況に合わせて都度業務の効率化や各階のリハビリスタッフと協力しながら、患者さんの食事や排せつの援助などの業務を可能な限り継続していききました。

急性期病院からの紹介は年末まで続き、入院は27日まで受け入れ、毎日のベッドコントロール会議で可能な限りの感染隔離・感染者の治療をおこない、年末年始を満床で推移することができました。

今回、各階での感染発生で人員が不足するなどの事態となりましたが、看護主任を中心に、忙しい中でもスタッフ間のコミュニケーションを良好に保ちながら乗り越えることができました。主任たちからは「みんなで頑張っているから大丈夫です」という声がいつも聞こえてきます。これまで様々な困難を経験してきましたが、看護とリハビリが力を合わせて明るくて働きやすい職場風土を作ろうとしている状況を見て、これこそ我々が目指すOurTeamではないかと強く感じました。